

日本工営が水害、土砂災害対策で関連技術の開発を強化している。ダムに流入する雨量の予測や放流用ゲートの開閉判断に、2種類の人工知能(AI)を活用。ダムの効率的な運用だけでなく、下流域で暮らす住民の避難勧告に役立てる。流入量予測は国土交通省九州地方整備局を含む発注機関に導入している。放流用ゲートの開閉判断は検証作業などを進め実用化につなげる。

日本工営

土砂災害の被害軽減を狙い、同社はディープリニアング(深層学習)を活用した洪水予測とダム操作の実現性を検証。10分に1回程度、気象予測や降雨、河川監視画像などをモニタリングしダムへの流入量を予測。もつひとつのAIを使い、ダムの水かさなどから

木造一戸建て参入

タカマツハウスTCG第3の柱に



藤原社長

明社長)とも連携していく。高松コンストラクシヨングループ(TCG)で高松建設、青木あすなる建設に次ぐ第3の中核事業会社に育てる目標を掲げる。

高松建設は賃貸住宅や事業用建物などRC造建築物をメインターゲットとしている。首都圏ではマンション価格が高止まりする中で、一戸建て住宅の購入希望が30〜40代の年齢層で強まっているという。こうしたニーズを取り込む狙いがある。一次の1000年の家づくりに事業ミッションに掲げており、顧客の多種多様なライフスタイルに対応しつつ、資産価値が維持

高松建設のグループ会社・タカマツハウス(東京都千代田区、藤原元彦社長)が、木造一戸建て住宅事業に本格参入した。同社の設立は2019年4月。首都圏を中心に木造一戸建て住宅の営業・企画・販売事業を展開する。高松建設グループのタツミプランニング(横浜市西区、工藤孝宏社長)とミブコーポレイション(東京都渋谷区、橋本政

高松建設は賃貸住宅や事業用建物などRC造建築物をメインターゲットとしている。首都圏ではマンション価格が高止まりする中で、一戸建て住宅の購入希望が30〜40代の年齢層で強まっているという。こうしたニーズを取り込む狙いがある。一次の1000年の家づくりに事業ミッションに掲げており、顧客の多種多様なライフスタイルに対応しつつ、資産価値が維持

できる住まいの提供を目指す。ミブコーポレイションが分譲用地を仕入れ、タツミプランニングが住宅を設計・施工し、タカマツハウスが販売する。藤原社長は元積水ハウス常務執行役員。大手ハウスメーカーの元幹部らが役員に名を連ねているという。数区画の販売から開始し、5〜10年後には年間売上高400億〜500億円を目指す。

断する仕組みだ。ゲートの開閉作業は、ダムごとに保有している操作マニュアルで厳重に管理されている。従来は人の手で入っていた開閉作業をAIが担当するため、適切な洪水調整を可能にする。実証実験で有効性を確認した上で、同社はダムを管理する電力

どの工事を手掛けるテクサジャパン(兵庫県西宮市、坂口哲哉代表取締役)は、環境や発電設備に配慮した新洗浄サービス「テクサP Vケアフル洗浄サービス(PVCC)」を始めた。微生物が汚れを分解する生分解性の洗剤「バイオオキシシユ」や専用ブラシなどを使用し、太陽光パネルの破損やアルミ製フレームの腐食を防ぎつつ洗浄する。PVCは、パネル全面にバイオオキシシユを噴霧し専用ブラシやゴム製ワイパーで磨いた後、中性の純粋水でパネル全面を洗い流す。モップで水滴を拭き上げればパネルを傷つけず、鳥のふんなどの汚れが取り除ける。

従来の洗浄方法では、酸性やアルカリ性の洗剤を使うことで土壌などの環境を汚染してしまったり、高圧洗浄機の使用でモジュールに傷がついたりしていた。

循環加温ヒール冷凍空調学会 三菱重工業(東京都千代田区)と共同開発した循環ポンプ「Q-Culat」

生分解性の洗剤で太陽光パネル洗浄

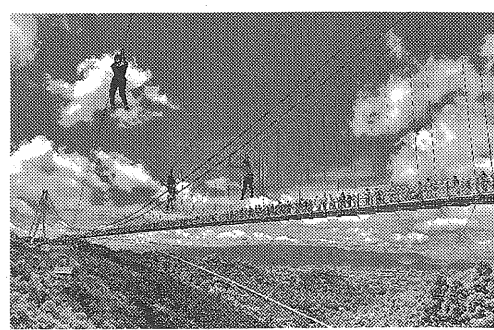
テクサジャパン

太陽光発電や電気通信な

高校生以下を無料招待

フジコー、設計は長大

アミューズメント事業を展開するフジコー(静岡県三島市、宮澤俊二代代表取締役)は7月31日まで、長大が設計した歩行者専用大つり橋「箱根西麓・三島大吊橋」(愛称「三島スカイウォーク」)に県内在住の高校生以下を無料招待する。新型コロナウイルスの感染拡大で外出自粛を受ける県民に、公園のように遊べる場を提供する。期間中は高校生以上も通常の半額で利用可能だ。



季節の移り変わりを楽しめる三島スカイウォーク

全現場にフェースカバリングを導入

三井住友建設、新型コロナ・熱中症対策

三井住友建設は新型コロナウイルス対策と熱中症のリスク低減を両立する目的で、全現場にフェースカバリングを導入する。フェースカバリングにはスポーツから顔の下半分を覆うものの、顎部分を開放することで熱がこもらないように工夫した。屋外での使用前提としており、現場事務所などの屋内ではマスクを着用する。

同社は新型コロナウイルスの感染対策として現場ではマスクを着用して作業を行っている。ただ、今後夏季に向か



現場に導入するフェースカバリング

って気温が上昇、マスクを着用すると熱中症の発生率が高まることから、フェースカバリングの代替となすこととなった。新日本空調から、新日本空調の「Q-Culat」は、微粒子可視化によって飛沫(ひま)効果的に抑え、フェースカバリングを導入を決めた。